

2024年度 第1回原料規格三者委員会 議事録 (案)

1. 日 時 : 2025年2月21日 (金) 15:30~17:00

2. 場 所 : 鉄鋼会館 8階 802号室 (対面) / Microsoft Teams (Web)

3. 出席者 : (敬称略)

委員長 尾島 (東京理科大学)

副委員長 田中 (龍) (東京理科大学)

委員 矢野 (博) (伊藤忠商事)、矢野* (知) (双日)、鶴岡* (丸紅)、
田中 (裕)* (三菱商事 RIM ジャパン)、伊藤 (海外貨物検査)、
稲角* (東京大学)、堤* (日本規格協会)、錦織* (神戸製鋼)、
厚東* (JFE スチール)、川本^{代理}山田* (日本製鉄)

(委員長・副委員長・委員計 12名、*Web参加)

欠 席 服部 (住友商事)、園田 (三井物産)

関係者 菊田 (経済産業省) (関係者計 1名)

幹 事 石川 (鉄鋼連盟)

事務局 越川・井田 (鉄鋼連盟) (幹事・事務局計 3名)

4. 議題と配布資料

4.1 審議事項

1) 前回議事録案の確認

資料 1-2 2023年度 原料規格三者委員会議事録 (案)

2) 制定審議

資料 2 JIS M 8722 鉄鉱石-熱割れ試験方法

資料 3 JIS M 8223-1 鉄鉱石-ニッケル定量方法-第1部
: ジメチルグリオキシム吸光光度法

資料 4 JIS M 8223-2 鉄鉱石-ニッケル定量方法-第2部
: 鉄抽出分離原子吸光分析法

資料 5 JIS M 8224-1 鉄鉱石-クロム定量方法-第1部
: 1,5-ジフェニルカルボノヒドラジド吸光光度法

資料 6 JIS M 8224-2 鉄鉱石-クロム定量方法-第2部
: 鉄抽出分離原子吸光分析法

資料 7 JIS M 8225-1 鉄鉱石－バナジウム定量方法－第 1 部
:N-ベンゾイル-N-フェニルヒドロキシルアミン抽出分離吸
光光度法

資料 8 JIS M 8225-2 鉄鉱石－バナジウム定量方法－第 2 部：原子吸光分析法

3) 廃止審議

資料 9 JIS M 8223 鉄鉱石－ニッケル定量方法

資料 10 JIS M 8224 鉄鉱石－クロム定量方法

資料 11 JIS M 8225 鉄鉱石－バナジウム定量方法

4.2 報告事項

- 1) 資料 1-1 2024 年度 第 1 回原料規格三者委員会名簿（報告）
- 2) 資料 1-3 原料 JIS 制改正中長期計画（報告）

5. 議事内容及び結果

委員会成立の確認：委員数 14 名に対し出席委員数 12 名で過半数を満たしており、委員会が成立。

会議に先立ち、会議資料の確認及び前回会議以降の委員変更の紹介があった。

新委員： 矢野（博）委員（伊藤忠商事、木原委員から交代）

鶴岡委員（丸紅、木幡委員から交代）

田中委員（三菱商事 RIM ジャパン、八田委員から交代）

川本委員（日本製鉄、山田委員から交代）

関係者： 神沢様（経済産業省、富永様から交代）

菊田様（経済産業省、伊藤様・須恵様から交代）

5.1 幹事から前回議事録の報告がなされた。

前回議事録は、会議後に回付されており、特に異議がなく承認された。

5.2 幹事から、原料関連 JIS 制改正中長期計画について報告された。

5.3 制定 7 件及び廃止 3 件について、鉄鋼連盟の事務局より制正/廃止内容の説明がなされ、質疑応答がなされた。

1) 尾島委員長より、資料 2 の検証の規定において、試験結果の「再現性」という用語は適切でないとの指摘があり、審議の結果、用語規格に定義されている用語を用い「室内再現条件における精度」と修正することにした。

2) 田中副委員長より、資料 4、6 及び 8 の検量線の直線性の求め方を示す図は規定を満たす図とした方がよいのではないかとのコメントがあり、審議の結果、説明のために直線性の基準を満たさない図を例として用いていることを注記として記載することにした。

3) 田中副委員長より、資料 5 で用いる全量フラスコの材質指定の可否に関してコメントがあり、審議の結果、樹脂又はガラス製のものを用いることを記載すること

にした。

上記の修正の他、制定 JIS 案は、規格ごとのコメントテンプレートに記載された通り修正することとし、制定 7 件及び廃止 3 件は、いずれも承認された。

5.4 その他

2025 年度の原料規格三者委員会を、2026 年 2 月 20 日（金）に開催することが確認された。

以 上